

令和 8 年度 第 3 回 札幌市景観審議会 会議録

1 日時： 令和 8 年 9 月 28 日（月） 14 時 00 分～15 時 30 分

2 場所：さっぽろテレビ塔 2 階「しらかば・あかしあ」

3 議題：

【議事事項】

- (1) 札幌市景観計画の変更について(意見聴取)
- (2) 景観まちづくり指針の変更について(意見聴取)

【報告事項】

- (1) 今後の景観プレ・アドバイスについて
- (2) 景観プレ・アドバイスの実施結果について(非公開)

4 出席者

(1) 委員（五十音順）（14 名中 10 名出席）：

愛甲哲也委員、明石奈々委員、池ノ上真一委員、石塚雅明会長、
笠間聡委員、田川正毅副会長、森傑委員、森朋子委員、渡部典大委員、
松本純委員

(2) 事務局：札幌市まちづくり政策局都市計画部長、地域計画課長、景観係長、
景観まちづくり担当係長 ほか

5 議事の要旨

【議事事項】

(1) 札幌市景観計画の変更について(意見聴取)

・事務局より、パブリックコメント及び都市計画審議会での意見概要、景観計画変更案について説明の後、審議を行った。

【審議会としての意見】

なし

【委員の主な意見・要望】

森(朋)委員： 2点ある。1点目、パブリックコメントの意見 18 件すべての意見を知りたい。2点目、都市計画審議会における眺望景観に関する質疑で、事務局が土地利用計画制度などの検討をすると回答しているが、景観施策では土地利用計画制度の活用に限界があるはずであり、回答に違和感がある。

(事務局) → 1点目については、景観計画本書（議事資料 1-2）の 126 ページから 129 ページに掲載している。2点目については、都市計画審議会での回答は、景観施策の所管としてだけでなく都市計画部全体としての回答を行っていることとご理解いただ

きたい。

渡部委員：ロードマップの表現について、建築物等の誘導部分の取組について、短期的取組と全体の取組との関係性がわかりにくい表現となっているため修正すると良い。

愛甲委員・明石委員：

成果指標における「札幌の景観を魅力的だと感じる市民の割合（80%以上）」に関して、具体的な調査方法や回答者の母数について確認したい。

（事務局）→市が行う指標達成度調査により把握する。回答数は正確ではないが2,000～3,000程と記憶している。調査方法については本編に記載する。

松本委員：施行後に説明会のような機会はあるか。出来ることがあれば協力したい。

（事務局）→開催する方向で検討している。

（2）景観まちづくり指針の変更について（意見聴取）

- ・事務局より、札幌の景観色70色の第2版への変更に伴う、対象7地区の景観まちづくり指針の表記変更について説明の後、審議を行った。

【審議会としての意見】

なし

【委員の主な意見・要望】

愛甲委員：景観まちづくり指針の今回の変更に係る地域への確認の際に、最近の地域の状況等に対して意見があったかどうか確認したい。

（事務局）→景観に関する意見はなかった。

田川委員：景観色の配列について、今回の見直しで直感的にわかりやすくなったと思う。活用されることが大切であり、普及啓発や活用アイデアを広報誌などで楽しく紹介していくと良いのではないか。また、最近多いガラス張りの建物の内側のバックパネルの色などにも活用が広がることを期待したい。

【報告事項】

（1）今後の景観プレ・アドバイスについて

- ・事務局から、景観計画の変更に伴い協議の対象とする区域・高さの要件の追加及び今後の運用の方向性について報告した。

【委員の主な意見・要望】

森(傑)委員：景観プレ・アドバイスが承認プロセスではなく、事業者にとっても良いデザインに向けたスタディの場として機能することに価値があることから、事業者がそう思えるような位置付け・運用になるとよいと考える。

石塚会長：森委員の意見はとても大切な視点で、景観プレ・アドバイスが事前審査ではなく、創造的な意見交換の場となるよう進め

てほしい。

森(朋)委員：都市のシルエットの誘導について、一建築物として出来ることと群としてできることがある。テレビ塔の背景となる大通東側エリアの誘導について、どのように誘導していくかあまり議論が深められていないと考えており、先に議論しておくべきことがあるのではないか。

石塚会長：テレビ塔の背景となるエリアについては、事務局によるスタディの提示を受けて、計画に配慮の方向性は示されているが、具体的に踏み込めてない部分もある。今後事業者の提案などを受け、協議を重ねて試行錯誤していくプロセスを経ていくことになると思う。

(事務局) →大通東側のエリアでは、地権者の方と市の別の部局で今後のまちづくりについて意見交換しており、具体の計画段階では景観部局も連携して、望ましい形を一緒に検討していきたい。

笠間委員：プレ・アドバイスの過去事例の整理や事例集などの取組について、運用の成果や課題の整理は制度の見直しや計画の見直しなどにも大事な資料になることから、早期に検討を進めていただくとよい。